

宮城県現地調査結果報告 【中田俊彦委員報告資料】

- (1)実施日： 令和2年10月14日(水)
- (2)訪問先： 宮城県 石巻市、名取市
- (3)参加者： 秋池委員長代理、岩淵委員、白根委員、白波瀬委員、中田スウラ委員
中田俊彦委員
- (4)行 程：
- ① 石巻市
新内海橋
宮城県水産高等学校
石巻南浜津波復興祈念公園
 - ② 名取市
宮城県農業高等学校
かわまちてらす閑上
名取市震災復興伝承館



(5) 結果報告:

① 石巻市

新内海橋

視察先概要:

石巻市中心部の中央地区と湊地区を結ぶ内海橋の上流に、宮城県が災害復旧事業として整備(令和2年9月10日開通)。事業延長は654m(橋梁202m、幅員14.5m)、国道398号線として供用。

➤ 車中での県からの説明の概要は、次のとおり。

- 石巻市の中央地区と湊地区を結ぶ国道398号として、令和2年9月10日に開通した。旧内海橋は老朽化と震災で被災したため、宮城県が災害復旧事業として約100m上流に架け替えた。事業延長は654m(橋梁202m)、嵩上げにより旧内海橋より約4m高くなっている。事業着手は平成24年度、今年度中に新西内海橋の取り付けと旧内海橋の撤去を予定している。総事業費は約132億円。
- 交通の要衝であり、産業・生業の復旧に向けて、人とモノの流れがスムーズになったことにより、水産業や観光業の活性化に寄与できればと期待している。また、中州の中瀬地区には石ノ森萬画館が、川岸には「かわまち交流センター」や「いしのまき元気いちば」などを含むかわまち交流拠点が整備されており、一体的な賑わいを創出している。

➤ (所感)

- ・従来から交通のボトルネックだった橋が、ようやく新しくなって、北上川の右岸と左岸の行き来が円滑になるだろう。ただし、震災後、ここまで至るのに本当に長い時間を要した。北上川を横断する橋は、もともと数少ない上に、従来の街並みの配置に基づいているので、上流側でも両岸の孤立感が残っている地区がある。
- ・別途、下流側に建設中の石巻かわみなど大橋(鎮守大橋)が完成すると、さらに利便性が高まり、自転車や歩行者の回遊も可能となろう。

宮城県水産高等学校

視察先概要:

宮城県における水産業の担い手を育成する専門高校(1896年創立)。津波により浸水した校舎が県費を充当して復旧し、本格的な教育活動を再開。震災後の平成26年度には学科改編を実施(調理類型の新設など)。地域の水産業の発展に貢献する人材を幅広く育成。

- 瀧田校長からの説明の概要は、次のとおり。
 - 震災当時、津波により校舎内は床上 50cm ほど冠水。地盤沈下等による連日の冠水を受け、平成23年5月から石巻北高校の敷地内仮設校舎に移転し授業を開始。その後、1年8カ月の仮設校舎を経て、平成25年に本校舎で授業を再開。本校舎は、老朽化と震災時の床上浸水のため平成30年度に新設。
 - 平成23年10月の宮城県震災復興計画、平成24年3月の宮城県産業教育審議会の検討を受けて、平成26年度に学科を改編し、調理師養成課程を新設。それにより、航海技術、機関工学、生物環境、フードビジネス、調理の5類型に改編。
 - 進路としては、進学が2割、就職が8割。民間就職のうち、8割が水産・海洋関連産業に就職。石巻地域の水産業の発展に貢献している。
 - 一方、課題として、石巻地域の高校生の減少による定員割れが毎年生じており、塩釜・多賀城地区等からの生徒の勧誘を行っているところ。そのほか、水産の免許を持つ教員の確保も悩ましい問題。

- その後、学校内を視察。概要は、次のとおり。
 - 調理類型: 巻き寿司の調理実習を視察後、航海実習においてハワイ沖で獲ったマグロを加工して作ったマグロのつみれ汁を試食。
 - 機関工学類型: シミュレーターによる船舶エンジンの働きをチェックする様子を視察。
 - フードビジネス類型: 遠洋航海実習で漁獲したまぐろやさんまなどを加工し、缶詰として販売する製造実習場を視察。
 - 航海技術類型: シミュレーターによる大型船の操船実習を通して船舶の仕事を学ぶ様子を視察。
 - 生物環境類型: ホヤや牡蠣などの魚介類を養殖する栽培実習棟を視察。



瀧田校長からの説明



調理実習の視察



シミュレーター操作の視察



原動機実習室の視察

➤ (所感)

- ・授業時間中にもかかわらず、教職員の方々に時間を割いていただいたことに感謝する。
- ・地域社会における専門高校(職業高校)の意義を、実感することができた。創立以来 124 年の歴史と伝統を有し、地域社会の水産業の担い手を育てている。宮城県内では、気仙沼向洋高校と共に二高存在する。
- ・一般教養の教育科目に加えて、水産資源の養殖場、エンジン維持管理習熟のための実機設備、497 トンの水産実習船、調理実習と、幅広い教科を少人数の教職員が手分けして教育にあたる現場は、想像以上にたいへんそうだ。
- ・ノルウェーに代表される大規模遠洋漁業のビジネスモデルと対局にある、地域主体の小規模の水産業の使命を、大震災の後でここまでふんばり続けてきた教育現場に触れて、体感できた気がした。
- ・生徒の育成に加えて、多分野かつ専門性と実務能力が要求される「教員」を、今後も絶やさず継続して育てていく教育環境も重要であると認識した。

石巻南浜津波復興祈念公園

視察先概要:

東日本大震災の津波と火災の延焼により約 400 名の方々が犠牲になった石巻市南浜地区に震災復興のシンボルとなる約 40ha の県営・市営公園を整備し、県営公園の中心部に国営追悼・祈念施設を国が整備。令和2年度末完成予定。

- 車中での宮城復興局からの説明の概要は、次のとおり。
 - 石巻南浜・門脇地区で震災、津波により約 400 名の死者、行方不明者が生じ、市内で最大のものだった。
 - この地域に、「石巻市南浜地区復興祈念公園本構想」が策定され、平成 29 年より工事を開始、令和2年度の完成に向け整備が進められている。国、県、市が役割分担して公園を整備（国が追悼・祈念施設、県が一時避難場所となる築山や駐車場等、市が運動やレクリエーションのための広場等）。
 - 近くに、震災遺構の旧門脇小学校もある。

➤ (所感)

・陸前高田(岩手県)や双葉(福島県)に比べると、完成が遅れている。津波と火災の惨状が残る旧門脇小学校に近いだけに、石巻を代表する祈念公園として重要な箇所になる。地域で活躍した複数の NPO の関わりなど、今後の施設の運用と情報発信のノウハウが問われてくるだろう。

② 名取市

宮城県農業高等学校

視察先概要:

宮城県における農業の担い手を育成する専門高校(1885年創立)。津波により校舎、敷地が壊滅的な被害を受け、三校での分散通学を経て、仮設校舎で授業を実施。国費を充当して校舎を新設し、平成30年4月に現在地に移転。地域の課題に向き合いながら、農業の発展に貢献する人材を育成。

➤ 峯岸校長からの説明の概要は、次のとおり。

- 学校が制作した「新校舎落成記念DVD」を見ながら、震災から三校分散登校、プレハブ校舎、新校舎への移り変わりを説明。
- 農業科(畜産、作物)・園芸科(草花、施設野菜、露地野菜、果樹、造園、植物バイオ)、生活科、食品科学科、農業機械科の4学科。生徒数は約700名で、わずかだが女子の方が多く、ここ1、2年で男女比が逆転。また、牛部(飼育、搾乳)、6次化、「ご当地絶品うまいもん甲子園」などで女子の活躍が目立つ。特に震災後は、志高く、目的意識を持って入学してくる生徒が多くなっている。
- 寮も併設し、義務入寮、希望入寮も含め学校生活中に寮生活を経験する仕組みになっている。
- 生徒の保護者は会社員が多く、家業が農家という生徒はそれほど多くない。
- 学校として主にホームページでの情報発信を強化し、中学生や保護者に情報発信している。
- 学校の敷地は元々は水田で、農地の土は元の学校の畑から運んできており、土壌改良も進めているが、生育の良い土地と悪い土地とがはっきりしているため、生産性を高めるにはまだまだ時間がかかる。土壌改良の実際の作業内容としては、保水性や排水性の改善を目的とした有機物の施用、耕耘、土壌の反転等、トラクターによる作業が中心であり、トラクター稼働率は非常に高い。
- 水耕栽培や溶液栽培、植物工場などの取組み、企業との連携で進めているところ。

➤ その後、学校内を視察、生徒との意見交換。概要は、次のとおり。

- 授業の様子、学校施設、農場を視察。
- 実習水田は6.3ha、他に、野菜畑、果樹園、造園、畜産施設、6次化ゾーンに農業機械科、食品科学科の実習棟、牛乳を自動で作る設備、6次化商品開発をする拠点「農業経営者クラブ」などがある。6次化開発では企業とのコラボレーションなどにも取り組んでいる。また、授業で作った農作物等の無人販売もあり(コロナの影響下、無人化した)。
- 意見交換会に参加した生徒は、生徒会長や農業クラブ会長、農業経営者クラブ代表の生徒で、震災の経験、現在取り組んでいること、将来の進路、夢などを語ってもらった。いずれも、しっかりした高い志を持った生徒であった。

- 委員からは、「震災を経験し、何を学んだのか、進路に影響を与えたのか」などの質問も出て、生徒からは「助け合うことの大切さや当たり前大切さを学んだ、震災を契機に農業に関心を持った、防災に関する取組みも行っている」などの発言があり、活発な意見交換が行われた。



峯岸校長からの説明



生徒との意見交換



服飾手芸の授業を視察



農業経営者クラブの取組を視察

➤ (所感)

・授業中にもかかわらず、農場を含めて広い構内を案内していただくと共に、生徒との懇談の機会を設けていただいたことに感謝する。

・先に見学した水産高校に比して、女子生徒の割合が高く、最近では男子数を越えたことは驚きである。野菜や畜産にとどまらず、食生活への現代社会の感心の高まりが高校生まで広がると共に、それらの教育ニーズをうまく取り込んでいる。

・クラブ活動としての「牛部」の存在は、とても個性的で特徴がにじみ出ている。引きこもりなど若年層のネガティブな側面がニュースになる時勢に、なんと爽やかな若者達だろうか！ 加工食品のビジネスモデル全国コンテストへの参加や、農業・畜産系大学への進学動機づけなど、農業技術を基盤としつつ食やビジネスへの多様な価値の展開を、早くから体感できる教育環境をつくってきた。

・大震災時には、仙台空港の近く、大津波の直撃を受けながら、被害を最小限に留め、その後は県内の施設に転々と間借りして、ようやく名取郊外に新校舎を整備できた。たいへんの苦勞と努力があったことだと推察する。

かわまちてらす閑上

視察先概要:

平成 31 年 4 月オープン。被災事業者を中心に、地元の新鮮な食材を取扱う鮮魚店等の店舗が出店。「閑上地区まちなか再生計画」の中核的商業施設に位置付けられ、人々の賑わいの拠点となる商業施設として重要な役割を担う。

- 小野寺名取市生活経済部長、櫻井かわまちてらす閑上代表取締役からの説明の概要は、次のとおり。
 - 国土交通省の支援制度に登録した「かわまちづくり計画」の一環として、名取川沿いの堤防沿いに木造施設3棟を整備し、全 26 店を展開している。また、26 店舗の内、12 店は被災した事業者、14 店舗は他の地域からの事業者となる。
 - 運営を被災した事業者だけで行うのではなく、様々な意見を持つ他の地域からの事業者も呼び込むことで、まちづくりにより影響を与えている。
 - 今後、船着場を整備し、更なる賑わいの創出を図るとともに、同地区内の名取トレイルセンターや名取市サイクルスポーツセンター等の周辺施設と連携しながら、より魅力的な地域となるよう取り組んでいきたい。



櫻井代表取締役からの説明



かわまちてらす閑上の視察

➤ (所感)

- ・甚大な被害を受けた閑上の復興のシンボルである。太平洋に注ぐ名取川下流域の右岸堤防を上手く開発に取り組み、従来は体感できなかった河川と共存する商業施設となった。カフェや風を感じる散歩など、日常気軽にリフレッシュできる空間が生まれた。
- ・商業面では、仙台方面からの週末の観光客と、かさ上げ地に住む地元住民のニーズ両面の取り込み、夕方以降の顧客の獲得など、新たな課題が見えてきた。

名取市震災復興伝承館

視察先概要:

国土交通省河川防災ステーションの敷地内に、震災の記憶や教訓を後世に伝承し、風化させることなく危機意識や防災意識を醸成する拠点として、令和2年5月30日に開館。市民、各種団体関係者、来訪者の交流を通じて震災の記憶の伝承や防災教育を行い、災害に強いまちづくりを担う人材育成の支援に取り組む。

- ▶ 山本名取市建設部理事からの説明の概要は、次のとおり。
 - 名取市は復興達成を宣言しており、閑上地区においては、計画人口 2,100 人に対し、1,600 人強が居住し、震災前の賑わいを取り戻しつつある。
 - 開館から2ヶ月で来館者が1万人を達成。館内には震災前の閑上地区を再現した大型ジオラマ、津波伝承や防災教育などに関する展示コーナー、映像ホールなどが整備されており、敷地内には災害時に備えた倉庫やヘリポートが設置され、防災拠点との機能も持つ。今後も、語り部による震災の記憶の発信や小・中学生を対象とした防災教育等に活用してまいりたい。



山本名取市建設部理事からの説明（ジオラマ前）



名取市震災復興伝承館内（シアタールーム）の見学

▶ （所感）

- ・他地区のメモリアル施設に比べると小規模である。歴史ある旧街区の模型など、ひとつひとつの展示物がかげがえのない意味を持つ。今後、この施設を拠点にして展開する地域活動に注目したい。
- ・従来は、名取市とは異なる町制として、農業と漁業が混在する独特な文化圏を有していた。閑上の希少な歴史も含めた伝承施設として、近くの商業施設との回遊も可能だろう。